

やはり米は足りなかった

昨今の消費者米価の高騰は、行き過ぎた減反政策の結果だと日本共産党は指摘しています。これは、政府や農林水産省が公表しているデータを見ればはっきりわかります。

毎年10万トンの減反を求める

需要は、国内消費と輸出入と外国人観光客の消費の合計ですが、令和2年以降はほぼ同じ水準で推移しています。ところが政府は、毎年10万トン需要が減少すると言い張って減反政策を進めた結果、収穫量は令和3年には前年対比20万トン、4年には30万トンも減少しました。

表 主食用米の需要と
収穫量（万トン）

基礎数字はすべて農林
水産省の公表データです。

	需要量			合計 a	収穫量 b	過不足 b-a
	国内消費	輸出	外国人旅行者の消費			
R2	704	2.0	0.6	707	723	16.4
R3	702	2.3	0	704	701	-3.3
R4	691	3.0	0.5	694	670	-24.5
R5	705	3.8	5.1	714	661	-52.9

農水省の甘い見通しとずさんな計画

令和3年からコメ不足に

その結果、令和3年以降は不足になり、5年には52.9万トン、国内消費のほぼ1か月分が足りなくなりました。民間在庫がどんどん減り、米不足の不安が広がりました。

需要が減っていないのに減反を進めたことが米不足の最大の原因です。

見通しの誤り

農水省は、令和6年産の需要を682万トンとコロナ禍より低く見積もっていますが、これでは一層のコメ不足を招きかねません。

「甘い見通しとずさんな計画」という、どこかで聞いた言葉が思い浮かびます。

川霧で視界不良に

6月15日に、かつてなく大規模な川霧が発生し、権蔵橋では川の中央から入善町側の視界が悪くなり、車のライトをつけて走りました。

前夜から上流部は強い雨が降って雪解けが進み、ダムの排砂が行われて冷たい水が激流となっていました。平地では気温が高く梅雨の雨が降り、弱い南西の風が吹きました。

川霧は年に何回か見ることがあります。多くは本流の上や川原一帯に広がる程度ですが、今回は橋の上にまで立ち込め、右岸の堤防はほぼ視界ゼロになりました。生れてはじめての幻想的な風景でした。



黒部市側から見た権蔵橋

植物暦

トマト。花言葉は「感謝」「完成美」です。
栄養満点な野菜なので「感謝」になったそうです。



もともと南米のアンデス山脈の原産で、コロンブスの南米大陸発見でヨーロッパに渡りましたが、最初は毒であると信じる人が多く、観賞用だったと言います。

こんなに有名な野菜になるとは、トマトも思っていなかったことでしょう。改良した人たちにも感謝です。